

## 1 当センターの患者が望む担当者との関わり

長野医療生活協同組合 長野中央病院 血液浄化療法センター

小林明子 須藤清美 山本秀子 吉岡智史

内科 中山一孝 島田美貴 近藤照貴

血液浄化療法センター—同、臨床工学科—同

### 【はじめに】

透析患者がより良い透析ライフを送るに当たり、合併症予防の為に生涯続く日常生活の自己管理が重要である。当血液浄化療法センター（以下当センター）では、通院中の全血液透析患者に担当者を配置している。担当者は療養計画に基づき療養相談を行い、スタッフカンファレンスで検討しているが日常の自己管理不良の患者に改善傾向が見られない場合がある。原因として患者の思いと担当者の思いが一致していないのではないかと考えた。そこで患者は担当者の指導をどのように受け止め、どのような援助を望んでいるのか、そしてスタッフは、患者がどのような援助を望んでいると考えているのか調査したので報告する。

### 【用語の定義】

療養相談：患者と一緒に可能な療養計画を立案し、4週間毎に患者とともに評価し見直す。

スタッフカンファレンス：毎日午後その日の勤務者で検討。

### 【方法】

質問紙調査法

患者：聞き取りまたは質問紙記入。

スタッフ：質問紙記入

### 【調査項目】

患者：

- 1) 担当者の指導が理解できているか
- 2) 担当者からの援助をどのように感じているか
- 3) 何をしてほしいと思っているか

スタッフ：

- 4) 患者が望む援助が解っているか

### 【倫理的配慮】

患者には、調査の目的・危害がない事・自己決定権などを説明し同意していただいた患者から聞き取りを行った。聞き取りは担当を持たないスタッフが行った。

### 【当センターの担当者の役割】

・患者の病態生理を理解し療養計画をたて療養相談を実施する。

・月2回の定期血液検査結果の説明と指導。

・一年検査（合併症検査）予定、実施、結果説明の状況把握

・よりよいコミュニケーションを保ちながら訴えや悩みを聞き問題解決の援助を行う。

### 【結果】

患者の聞き取り調査結果

- 1) 担当者の指導が理解できるか

あなたは担当者の指導が理解できますか？

できる 75名

できない 0名

除水量、年齢、性別に関係なく全員が理解できると答えた。

- 2) 担当者からの援助をどのように感じているか

---

小林明子 長野中央病院 血液浄化療法センター

〒380-0814 長野市西鶴賀町 1570 026-234-3584

①あなたは担当者との関わりが不快だったことがありますか？

ある 4名  
ない 71名

②あなたは担当者との関わりでうれしかったことがありますか？

ある 40名  
ない 35名

3) 何をしてほしいと思っているか

①あなたはどの様な事で担当者に関わってもらいたいですか？

- ・検査結果を丁寧に説明してほしい。
- ・困った時・具合の悪い時・悩みや疑問がある時に関わってほしい。
- ・担当者の現在の関わりに満足している為、今までどおりでよい
- ・担当者以外のスタッフに聞いたり訴えたりすれば答えたり、援助してくれる為不自由していない。
- ・誰でもよくしてくれる。困った時には誰にでも頼めている。

②あなたは自分に担当者があることをどう思いますか？

必要。安心できる 65名  
いなくてもよい 7名

スタッフ調査項目の結果

4) 患者が望む援助が解っているか

①あなたは患者が望む援助が解りますか

解る 17名  
解らない 3名

解らないと答えた3名の内2名は臨床工学技士。1名は配属後3ヶ月の看護師。

②あなたが考える患者の望む援助とは何ですか

- ・血圧が下がらない苦痛のない安全な透析
- ・コミュニケーション。患者の望んでいる事を聞き取り、それに対して援助を行うこと
- ・何か困ったこと・不安なことの相談
- ・よりよい療養生活を送る為の知識の補充
- ・生涯続く透析治療の支え

#### 【考察】

1) 調査対象患者全員が担当者の指導が理解できると答えている。その背景には検査結果用紙が大切なポイントを絞って目標値を記載してあることや見や

すい大きさをプリントしてあることで理解しやすいと考えられる。また管理栄養士が食事管理の援助をしていることや、「担当者以外のスタッフに聞いたり訴えたりすれば答えたり、援助してくれる為不自由していない」との患者の意見からも、担当者だけでなく他職種・他のスタッフが患者の望む援助をサポートする環境があることがわかった。

2) 担当者の関わりで不快を感じたことがない患者は71名で、不快を感じた事がある患者4名の理由は、検査結果や自分の現状についてタイムリーに丁寧に説明されなかった事であった。「何か言われても体のことを言われているのだから苦痛ではない」という意見から、患者は指導に対し不快とは感じていない。

うれしかったことがありますかの設問で「あいさつが気持ちよく病院に来る楽しみがある」「気にかけてくれる」「心配してくれる」「親身になって相談にのってもらえた」などの意見より患者は、担当者との日々の関わりや心の繋がりに喜びを感じていた。

3) 患者は何をしてほしいと思っているかの設問では、「検査結果を丁寧に説明してほしい。」「困った時・具合の悪い時・悩みや疑問がある時にかかわってほしい。」「担当者の現在の関わりに満足している為、今までどおりでよい。」という意見があった。担当者の存在をどう思うかの設問では、「心強い」「安心できる存在」と考える患者が大半であることから、信頼関係は構築できていると考えられる。以上より、患者が望む援助と担当者の役割は一致していた。

4) スタッフへのあなたは患者が望む援助が解りますかの設問に解ると答えた17名の主な内容は、「血圧が下がらない苦痛のない安全な透析を行う事」「コミュニケーション」「信頼関係の構築」「困ったこと・不安な事の相談」「よりよい療養生活を送る為の知識の補充」「生涯続く透析治療の支え」であった。

3) 4) の結果より、スタッフが考える援助と患者の望む援助は一致していた。

#### 【まとめ】

自己管理不良の患者に改善が見られない原因として、患者の思いとスタッフの思いが一致していないのではないかと考えていた。しかし、患者は担当者との関わりを快く受け止め、患者の望む援助はスタッフが考える援助と一致しており、更に担当者の役割とも一致していた。

**【終わりに】**

透析患者の望む援助とは、日々の透析業務のなかでの笑顔とあいさつ、安全で確実な透析、そして折にふれ声をかけ、話を聴き、気遣いを示すことで生涯続く透析の不安を和らげ、孤独をやわらげ、生きる力を支えるという、医療者として当たり前のことをすることだと改めて感じました。

**【参考文献】**

- ・透析患者の心とケア —サイコネフロロジーの経験から
- ・透析ケア August2005 Vo1.11No.8 患者を不安にさせないケア 患者の不安を支えるケア
- ・看護研究 NR 増刊号 Suppi.2006NO.198 Vol.39No.5
- ・透析医療のブレークスルーを探り、将来を展望する
- ・腎と透析 5 増大号 2003MayVol.54No.5
- ・新曜社 やまだ洋子非構造化インタビューにおける問う技法—質問と語り直しのマイクロアナリシス。質的心理学 研究 5 : 194-216)